「主な取組」検証票

I	施策展開	3-(12)-エ	離島を支える多様な人材の育成・確保	施 策	① 離島の産業・生活を支える人材の育成・確保						
	心			施策の小項目名	〇離島の活性化を担う人材の育成						
	主な取組	地域ボランティアの養成									
			は、少子化に加え若者の流出が著しいことから、本 る。このため、離島産業の活力増大や住民生活の質		急激に進展しており、地域産業や地域づくりの担い手が不足し 地域を活性化できる人材の育成・確保が課題である。						

1 取組の概要 (Plan)

	取組内容		年度別計画							
	議会が運営する「沖縄県ボランティア		H29	H29 H30 R元 R2 R3						
	ボランティア活動に関するイベントやボ									
	-ルマガジンの配信、各種講習会の情報 νティア担当研修協議会の開催等を行う		ボランティアコーディネーターにかかる基本講座の開催							
中长主体	ᄩᄩᆇᄼᆑᇸᆑ	*								
実施主体	県、県社会福祉協調	ボランティアを対象とした講習等								
担当部課【連絡先】	子ども生活福祉部福祉政策課	[098-866-2164]	ハノンティアで対象とした碑日守							

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の)進捗状況					(単位:千円)			
予算事業名 地域福祉推進事業費 (補助金 生涯現役活躍支援事業)									
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 海質見込頻		年度	令和2年度活動内容と令和3年度活動計画 OR2年度: 研修会等を2回、メールマガジンやHPによ
		次 异做	次 异做	次 异做	次 异般	決算見込額	当初予算額	主な財源	〇M2年度: 研修会寺をと回、メールマガジンやIIFによ るボランティア関係のイベントの情報提供、ボランティ
各省計上	補助	11, 576	11, 576	11, 576	11, 344	11, 118	4, 504	<u> п ни —</u>	ア募集を毎月2回行った。 〇R3年度: メールマガジンやHPによるボランティア関係のイベントの情報提供、ボランティア募集を継続し、ボランティア学習等を実施する。
予算事業名									
主な財源	実施方法	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度		年度	令和2年度活動内容と令和3年度活動計画
工化划标	天旭刀丛	決算額	決算額	決算額	決算額	決算見込額	当初予算額	主な財源	OR2年度:
									OR3年度:

・県内福祉教育関係者に対する研修会等の実施を通し、福祉教育の推進を図る。

活動指標名		社協へ登録し している会員		ランティア	R2年度			R2年度 決算見込	進捗状況	活動概要	
	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B	額合計	建沙扒 加	研修会等を2回、メールマガジンやHPによる ボランティア関係のイベントやボランティア募集	
実績値	26, 434名	26, 424名	24, 446名	28, 575名	25, 273名	28, 500名	88. 7%			を毎月2回行う等、ボランティアの充実強化に 取り組んだ。	
活動指標名						R2年度					
	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B		概ね順調	進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
実績値								11, 118		大所帯のボランティア団体(1団体)が組織として更新登録が行われなかったため、ボランティア会員総数は減少し計画地を下回ったものの、県内市町村社協へ登録しているボ	
活動指標名					R2年度					ランティア団体は、令和元年度の632団体から 令和2年度の673団体に増加(41団体増)して	
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			おり、ボランティアの人材確保やボランティア活動の円滑化及び活性化を図る人材の育成・確保が図られている。	
天棋胆										が、神田本の四つれてもでも。	
(2)これま	までの改善案	の反映状況									
令和2年度の取組改善案										反映状況	
・コーディネーターに対する支援を行うとともに、新たな人材確保のために検定 を実施する。							・ボランティアコーディネーターの育成のため、令和2年度はボランティアコー ディネーションカ3級検定を実施した(合格者18名)。				
内にてボラ	ンティア活動 ベントやボ	動を行う人・	団体を登録	するととも	ムページにま に、ボランラ など、拠点様	・ホームページにより、ボランティア活動をしている人の情報登録を行うとともに、イベントやボランティア募集情報等の提供を行う等拠点機能を活かした支援を行った。					

・福祉教育の推進を図るため、福祉教育・ボランティア学習セミナーを開催した。

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

〇内部要因

〇外部環境の変化

・市町村社会福祉協議会のボランティア担当者の資質向上のためのセミナーや市町村社会福祉協議会ボランティアセンター機能強化のための支援を行ったことにより、ボランティア登録団体数は増加している。

・地域福祉の課題が顕在化する中、ボランティアに対する関心も高まり、地域に おいてボランティアの重要性が増している。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・人材の養成を行うとともに、ボランティアを必要としている人々とボランティア希望者のマッチングを支援することで、ボランティア活動を行いやすい環境整備 を行う。
- ・地域におけるボランティアの重要性が増している中、地域住民がお互いを支え合う意識を高めていく必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・コーディネーターに対する支援を行うとともに、新たな人材確保のために検定を実施する。
- ・「沖縄県ボランティア・市民活動支援センター」のホームページにおいて、県内にてボランティア活動を行う人・団体を登録するとともに、ボランティア活動に 関するイベントやボランティア募集情報等の提供を行うなど、拠点機能を活かした支援を行う。
- ・県内福祉教育関係者に対する研修会等の実施を通し、福祉教育の推進を図る。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(12)-エ	離島を支える多様な人材の育成・確保	施 策	① 離島の産業・生活を支える人材の育成・確保								
心界成用		開始と文人の夕採な八州の月以・唯休	施策の小項目名	〇離島の活性化を担う人材の育成								
主な取組	福祉人材研修セ	福祉人材研修センター事業										
		①離島においては、少子化に加え若者の流出が著しいことから、本島に比べ高齢化が急激に進展しており、地域産業や地域づくりの担い手が不足し ている状況にある。このため、離島産業の活力増大や住民生活の質の向上に貢献し、地域を活性化できる人材の育成・確保が課題である。										

1 取組の概要(Plan)

	取組内容		年度別計画						
福祉人材の資質向]上を図るため、沖縄県社会福祉協議会	⋛内に設置する福祉人材	H29	H29 H30 R元 R2					
研修センターにおい	で、社会福祉事業従事者に対し、業務 業種別、階層別に実施する。								
			福祉ニーズに応じた研修事業の実施						
実施主体	県、県社会福祉協								
担当部課【連絡先】	子ども生活福祉部福祉政策課	[098-866-2164]							

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の進捗状況								(単位:千円)				
予算事業名	予算事業名福祉人材研修センター事業費											
主な財源	実施方法	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度		年度 	令和2年度活動内容と令和3年度活動計画			
		決算額	決算額	決算額	決算額	決算見込額	当初予算額	主な財源	OR2年度: 社会福祉事業従事者に対し、業務に必要な 知識や専門技術に関する研修を、業種別、階層別に実施			
県単等	委託	56, 344	58, 353	65, 275	66, 483	61, 924	61, 924		した。 OR3年度: 社会福祉事業従事者に対し、業務に必要な 識や専門技術に関する研修を、業種別、階層別に実施す る。			
予算事業名												
主な財源	実施方法	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度		年度	令和2年度活動内容と令和3年度活動計画			
工作別源	大 爬刀丛	決算額	決算額	決算額	決算額	決算見込額	当初予算額	主な財源	OR2年度:			
									OR3年度:			

活動指標名	研修回数				R2年度			R2年度		活動概要	
	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B	決算見込 額合計	進捗状況	社会福祉事業従事者に対し、業務に必要な 知識や専門技術に関する研修を、業種・階層	
実績値	35	34	36	33	22	27	81. 5%			別に計19コース、22回実施した。感染症対策で地域別(北中南部・宮古・八重山)で開催していた研修をオンライン及び動画配信に変更した結果、当初計画より回数は減少してい	
活動指標名	研修コース					R2年度				వ .	
	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
実績値	18	19	20	19	19	17	111. 8%	61, 924	順調	新型コロナウイルスの感染症対策の結果、全ての研修をオンライン及び録画配信に切り替えて行った結果、研修回数は計画と下のった。	
活動指標名					R2年度					たものの、研修を受講する機会は提供することができた。 オンライン研修に不慣れな受講生もいるた	
	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			め、研修受講方法の説明等を丁寧に行った。	
実績値											
(2)これま	での改善案	の反映状況									
		令和2	年度の取組さ	收善 案			反映状況				
	員キャリア/ を行いなが <i>ら</i>					・引き続き残る2階層の実施に向け検討を続ける。					

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

〇内部要因

- ・限られた予算で、効率的・効果的に事業実施するためには、研修内容を充実させる必要がある。
- ・「福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程」は、福祉・介護サービス従事者が、自らのキャリアアップの道筋を描き、それぞれのキャリアパスの段階に応じて共通に求められる能力の向上を段階的・体系的に習得することを支援するものとして、国が全国的な導入を進めている。

〇外部環境の変化

- ・高齢化の進行により、令和7年には県民の4人に1人が高齢者になると見込まれている。
- ・医療機関や施設から地域生活に移行する知的・精神障害者の増加、核家族化・ 単身化の進行や家族介護者の高齢化等、家族を巡る状況も変化しており、福祉・ 介護ニーズは複雑化・多様化している。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・「福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程」が各階層に応じた福祉職員としての資質・専門性を高める効果的な研修となるよう、現在実施している「初任者コース」及び「チームリーダーコース」に加え、「中堅職員コース」及び「管理職員コース」の全4階層の導入に向けた検討が必要。

4 取組の改善案 (Action)

・「福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程」の全4階層実施に向け、県関係課と意見交換を行いながら引き続き研修計画の見直しを検討する。